

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ひだまり水沢森下 児童課 児童発達支援事業		
○保護者評価実施期間	令和8年1月5日		～ 令和8年1月16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 2
○従業者評価実施期間	令和8年1月5日		～ 令和8年1月16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月13日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・利用者の発達段階に合わせたプログラムを準備し、個人に寄り添った支援をしています。	・幼児、児童、生徒と年齢的にバラつきがあるなかで、多面的に分析してプログラムを考えて取り組んでいます。	・職員それぞれの異なる視点で分析、検討したものを支援に取り入れていきます。
2	・自主性を尊重する環境の中で、個人・グループと余暇時間を過ごせるよう支援しています。	・職員は最小限の声掛けにとどめ、意思決定は子ども達自身で行えるように支援しています。	・職員の関わり方を高度化できるように、職員同士での振り返りや研修をしています。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・児童クラブや児童館といった、地域の他の子どもとの交流の場に関しては機会がありませんでした。	・必要性を考えた上で、交流する機会を設けませんでした。	・地域とのネットワークの構築に努める必要があります。
2	・ペアレントトレーニングといった事業所が家族へ支援について情報提供する機会がありませんでした。	・職員の専門性を考えた上で、研鑽を積んでからと考えたため機会がありませんでした。	・全職員が資質を高め、情報を発信できる状態にしていきます。
3	・生活空間が階段や段差が多くありました。	・既存の建造物の2階と言った中で、利用者にはわかりやすく構造化に努めていました。	・今年度移転する予定となっております。そこでも利用者にはわかりやすく構造化に努めています。

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 ひだまり水沢森下 児童課 児童発達支援

公表日 令和8年 3月 31日

利用児童数 4

回収数 2

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	2					
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	2					
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	1		1		単純に2階にあるので対策はされていると思うが子供がわざと危ない事をした場合危険があるかもしれない	施設はさせてもらっております。その中で子ども達へはルールを示し、危険時には冷静な対応をしております。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	2					
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	2					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	2					
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	2					
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	2					
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	2					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	2					
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	1				1	
保護者 への 説明等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	2					
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	2					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	1				1	
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	2					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	2					
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	2					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1				1	
19 こどもや家族からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	1				1		

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	2					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	2					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	2					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	2					
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	1			1		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	2					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	2					
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	2					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	2				喜んで通っています	ありがとうございます。今後も楽しみに通所して頂けるように研鑽に努めます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	2					

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		ひだまり水沢森下 児童課 児童発達支援				公表日	令和8年3月31日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		スペースを確保するため整理整頓をこころがけ、活動によってスペースの使い分けで対応している。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		管理者・児童発達支援管理責任者・児童指導員と配置数は適切である。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	1	既存の建物であるためバリアフリーは難しい面もあるが、利用者にわかりやすく構造化に努めている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		衛生管理マニュアルに沿って、換気や消毒を行って清潔に努め、活動に応じてスペースの使い分けをしている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		感染などの恐れのある利用者に対しては、個別の空間を使用するなど対応している。	今後も静養スペースの確保は必要となっている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		定期的な振り返りを行っている。	各職員からの積極的な発言が必要となり、環境整備をしていく。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		アンケートを通し、保護者の意向を把握し、ミーティングの機会を設け職員間で共通理解をしている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		朝礼や会議を通し、業務改善に繋げている。	個別に意見を聞く機会を定期的に行う事も必要となっている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	1	中立的立場の第3者委員がいます。	今後は外部評価機関における評価が必要となってくる。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		限られた職員だけが受講することにならないように伝達研修を行う事で各職員の資質向上に努めている。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		5領域との関連性を明確にしたプログラムをHPに公表している。	各職員により理解を促す必要がある。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		面談等を通し、ニーズや課題を分析し支援計画を立てている。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		支援に関わる職員に共通理解できる機会をもうけている。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		モニタリングを通し、支援方法等各職員に共有している。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		定型のツールを用いてアセスメントを行っている。	定期的な見直しも必要となっている。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		法人として定型の「放課後等デイサービス計画」は全てを網羅できる様式となっており、それに沿った形で立案できている。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	1	月ごとに担当職員が立案しているが、会議において共通理解を求めている。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		5領域に合わせたプログラムを組み合わせ創意工夫して行っている。	利用者の経験が限られる事のないように、より創意工夫が必要となっている。	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6		年齢や発達段階を考慮し、グループ・個別と支援を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		朝礼時や支援開始前に活動の進め方など確認を行い連携して行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	1	職員連絡帳を活用し毎日の振り返りを行い、職員会議においては月ごとの振り返りを行い、情報共有をしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		支援記録として連絡帳の記載を行っている。	個別の特記事項についても漏れのないようにしていきたい。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		概ね6か月に1回モニタリングを行い、共通で見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6			基本児発管が出席している中で、その子供の担当職員が出席する機会を増やしていきたい。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	1	必要に応じて医療機関や教育機関と連携をとり支援体制を整えている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		情報を共有し、相互理解に努めている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		移行した後は情報共有を図っている。	就学する前に小学校や特別支援学校との間で、情報を共有しておく必要がある。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	4	2	支援センターが主催した支援会議等には参加するようにしている。	地域とのネットワークの構築に努める必要がある。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		6		インクルージョンの観点から地域と連携のある活動も必要となってくる。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		引き渡し時、連絡帳等を通じて保護者と気になる事等日々の状況を伝えている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	1	法人主催のペアレントトレーニングの研修会や講座など情報提供を行っている。	事業所としてペアレントトレーニングに取り組む事ができるようにしていきたい。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		契約時、面談時等説明の必要な都度丁寧に行っている。		
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		年1回の面談の際には、家族の意向を確認している。	成長に伴って子ども自身の意向の確認もする必要がある。	
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6		立案・見直しの際には児発管が説明を行い、同意を得ている。		
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		連絡帳を通じたり、引き渡し時に助言を行っている。		

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3	3	事業所でのクリスマス会を通し、保護者同士の交流の機会を設けている。	保護者会の解散により交流する場はなくなっているが、今までとは違った形で交流する場を検討する必要がある。
	40	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		苦情への体制を整え、迅速な対応に努めている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6		月1回の「おたより」を発行し、情報の発信に努めている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		契約時に個人情報の取り扱いについて同意を得ており、また個人ファイルについては鍵のかかる書庫を利用している。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		丁寧にわかりやすく、簡潔に伝えることを意識している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に関わった事業運営を図っているか。	3	3	地域の老人ホームに慰問を行っている。	障がいについての理解も含め、地域への発信が必要。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		それぞれのマニュアルを策定し、内容について職員間で読み合わせを行っているほか、年4回避難訓練を行っている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		BCPを策定し年4回避難訓練を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6		契約時、また都度服薬状況など必ず確認する事になっている。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		契約時や面談時、又アレルギー発症時には保護者から検査結果を頂いて、必ず確認し対応をとっている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		安全計画を元に、利用者と一緒に訓練を行うなど支援を行っている。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		事業所からのおたよりを通して、避難訓練といった取り組みを保護者へ周知している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		ヒヤリハット発生後には、すぐに事業所内で共有し、会議においてSHELLモデルに沿った対応策を検討し、再発防止に努めている。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		委員会が研修機会を確保し、対応している		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6		身体拘束については事業所内で決定しており、児発管が代表して説明・理解を得ている。		

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ひだまり水沢駅東 児童発達支援		
○保護者評価実施期間	令和8年1月5日		令和8年1月24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1名	(回答者数) 1名
○従業者評価実施期間	令和8年1月5日		令和8年1月23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々の利用者に合わせて支援提供	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の理解度や発達段階に合わせた支援となるよう、日々の観察からアセスメントし、支援内容を検討しております。 ・毎日の朝会で、支援方法を振り返り、よりよい支援について検討しております。 ・スモールステップで成功体験を積み、自信に繋がられるようにしています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の成長に合わせた支援提供が出来るよう、都度、支援内容を振り返り、変更していきます。 ・強みや得意なことに着目し、力の発揮に繋がられるよう取り組みます。
2	家族支援と連携	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での困り感や心配ごとを共有し、一緒に考える学びの場となるよう、対象となる保護者へ、ペアレント・トレーニングを行いました。 ・保護者同士の情報交換の機会を求めている方が多いことから、懇談会を開催しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から、利用者・保護者へ話しやすい雰囲気づくりや、丁寧な説明を心掛け、信頼関係を深められるよう努めます。 ・相談などを受けた際には迅速に対応し、一緒に考えながら不安や心配ごとが軽減できるよう努めます。 ・保護者同士が集える場やペアレント・トレーニングを継続し、充実するよう努めます。
3	環境構成の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の特性や相性等を考慮し、1階と2階の部屋を使い分け落ち着いて過ごせるよう配慮しています。 ・利用者に合わせて手順書やスケジュール、タイマーを使用し、理解しやすい方法で取り組んでいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の観察から、室内の構造化について検討し、利用者が安心、安全に過ごせる環境となるよう努めます。 ・個別の活動では、集中した環境で支援を受けることが出来るよう検討していきます。 ・研修による学びの機会を設け、職員のスキルアップを図ります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	情報発信の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後等デイサービスの利用者の利用状況が多く、定員の観点から、未就学児の方への情報発信が不足していました。 ・周知できていると思われていたことが、アンケートにおいて「わからない」との回答があった為、発信方法に課題があったのではないかと考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業所や、その他関係機関との連携を強化し、情報収集に努めます。 ・ブログの活用やチラシの配布等で、情報発信を行うよう取り組んでいきたいと思います。 ・お便りや、SNS等で定期的にお知らせするよう努めます。
2	職員間の情報共有の不足	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の異動等による新体制となり、細部に至る情報共有に時間を要していると考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報共有の時間が確保出来るよう、業務の効率化について検討していきます。 ・業務内容や支援手順等のマニュアルを作成し、不明点を確認しやすくなるようにしていきます。 ・支援ツール等見直しを行い、理解しやすい方法について検討していきます。
3	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流	<ul style="list-style-type: none"> 平日は、放課後等デイサービスの利用者の利用状況が多く、定員の観点から、直接園へ伺う機会がなく、交流の場がありませんでした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業所や、その他関係機関と連携を図り、情報収集をしていきます。 ・放課後等デイサービスの利用状況との調整を図りながら、受け入れについて検討していきます。

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 ひだまり水沢駅東 児童発達支援

公表日 令和8年3月31日

利用児童数 年月日 令和8年1月16日時点 1名 回収数 1名

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	1					支援スペースを区切り、1つのスペースで過ごす人数を分散し、のびのび過ごせる工夫をしております。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。		1				利用者の特性や相性などを考慮し、基準を上回る職員配置をしております。シフト作成の段階で、適切な人員配置となるようにしております。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	1					利用者さんの状態に応じ、構造化を検討し、安心・安全に過ごせるような環境作りに努めております。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	1					快適な利用空間を提供し、活動や余暇で過ごす時間が充実するよう努めていきたいと考えます。
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	1					研修での学びや、自己研鑽に努め、専門性のある支援提供ができるようにしていきたいと考えます。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	1					支援プログラムに合わせた支援内容が提供できるよう確認しながら進めていきます。
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	1					利用者、保護者との情報共有を大切にし、ニーズに合わせた計画を作成するよう努めております。
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	1					ガイドラインを確認し、利用者の状態に合わせた支援の項目を選択しております。また、項目に合わせた支援内容となるようにしております。
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	1					支援前には児童発達支援計画を確認し、適切な支援提供ができるよう努めております。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	1					活動プログラムは、固定化されないよう意識して計画を立てるようにしております。
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	1					現在、日常的な交流の機会が少ない状況です。交流する機会については、今後検討してまいります。
保 護 者 へ	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	1					契約時や必要に応じて、丁寧に説明をするように努めてまいります。
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	1					作成時やモニタリングの際には、支援計画書を見ながら丁寧な説明を心掛けております。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。			1			今年度11月より、未就学児～小学4年生までの対象となる方に、ペアレント・トレーニングを4回開催しました。今後も保護者には、研修や交流の機会となるよう開催する予定でおります。開催時には、ご案内をいたしますので、ぜひご参加ください。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	1					面談や送迎時の情報共有の時間を大切にし、共通理解に努めております。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	1					年に一回、面談を実施しています。その他ご要望があれば時間を設けますので、遠慮なくお声がけください。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	1					保護者の悩みや困り感を丁寧に聞き、寄り添う姿勢を心掛けております。将来を見据え、お子様の成長について共に考えていきたいと考えております。

の 説 明 等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1				現在、保護者会の運営はございません。事業所では、保護者懇談会を開催し、保護者同士の交流する機会を設けました。きょうだい同士で交流する機会においては、実施しておりませんが、必要に応じて検討していきます。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	1				日頃からコミュニケーションを大切にし、お子様や保護者から相談があった際には、速やかに適切に対応するよう努めております。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	1				それぞれの利用者の理解度に合わせたスケジュール表や絵カード等を使用し、意思の疎通や情報共有ができるよう努めております。また、保護者への引き渡しの際の申し送りや連絡帳の活用、必要に応じて電話でも情報共有に努めております。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	1				今後も楽しみにしてもらえるような内容となるよう、工夫しながら情報発信に努めていきます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	1				個人情報の取扱いには十分に気を付けておりますが、配布物間違いなどがありました。チェック方法を再度確認し、十分気を付けていきたいと思っております。
非 常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	1				各種マニュアルは玄関に配置し、いつでも閲覧できるようにしております。また、お便り等で訓練の様子を伝え、安心して預けられるよう努めていきます。発生を想定した訓練は、年間計画に沿って実施しております。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	1				年間計画に沿って、火災や地震、水害等を想定した訓練を行っております。事業所にはAEDを設置しており、毎年AED講習も行い万が一に備えております。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	1				非常災害等の訓練や緊急時の対応については、お便りやSNSなどでお知らせするようにしております。お子様の安全を第一に考え、支援するよう努めております。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	1				事故や怪我が発生した際には、詳細について電話や引き渡しの際等に説明しております。今後も速やかに対応し、不安が募らないよう努めていきます。
満 足 度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	1				お子様が安心して利用できるような空間作りや支援に努めていきます。また、お子様と信頼関係を深め、気持ちを伝えやすい関係性となるよう努めます。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	1				お子様が「楽しい」と感じて通所して頂けるよう、活動内容を工夫したり、要望等を聞きながら話しやすい雰囲気作りで努めていきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	1				お子様や保護者に満足して頂けるよう個々に合わせた支援が出来るよう努めます。また、専門的な支援提供ができるようスキルの向上に努めていきます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ひだまり水沢駅東 児童発達支援				公表日	令和8年3月31日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		利用者の特性、相性などを考慮し、1階と2階を使い分け安心した気持ちで過ごせるよう配慮をしております。支援スペースを区切り、各スペースで過ごす人数を分散し、伸び伸び過ごせる工夫をしております。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7		利用者の特性、相性などを考慮し、基準を上回る職員配置を行っております。シフト作成の段階で適切な人数配置となるようにしております。	通常時には適切な人数配置ができておりますが、急遽の体調不良時等には、勤務調整等の検討をしています。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	1	各スペースごとに構造化し、利用者が分かりやすいよう表示しております。玄関前にはスロープ、室内はバリアフリーになっており、トイレには手すりもあり、車椅子の方でも利用しやすいよう配慮を行っております。	利用者の発達段階に適した構造化となるよう、職員間で検討し改善していきます。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		室内や車内は、毎日清掃を行い清潔を保つようにしております。また、定期的に消毒をし、感染予防対策を行っております。興味や関心が持てるような親しみやすい用具や教材を用意し、整理整頓を心掛けております。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		要望に合わせて、室内を使うことが出来るようにしております。個室を用意し、集団が苦手な方の使用や、情緒面等に変化が生じた際の休憩、活動などに活用しております。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6	1	毎日の朝会や職員会議で、全職員が日々の支援を振り返る機会を設けております。	支援統一を図ることを強化し、PDCAで取り組んでいきます。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		保護者からアンケートにて意向を調査し、改善点などを職員間で話し合い、改善に努めております。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		職員会議や朝会等で職員の意見を聞き取り検討しております。またその内容を業務改善につなげるよう努めております。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		7	現在実施しておりませんが、年1回第三者委員や顧問弁護士などへ報告する機会を設け、助言を頂いております。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		ZOOMでの研修や、年間計画に沿って内部研修を実施し、職員のスキルアップに繋がるようにしております。	外部の研修にも積極的に参加する機会が増えるようにしていきます。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		5領域を網羅した支援プログラムを作成し、公表しております。玄関には、自由に閲覧できるよう配置しております。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7		日々の利用者の状態を観察し、アセスメントに基づき、保護者のニーズと照らし合わせながら、必要なニーズを職員間で話し合い、計画を作成しております。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		職員全員で、利用者の困り感やニーズについて話し合い、共通理解の下で計画を作成するよう努めております。また、利用者の発達段階に合わせて検討を行っております。		

適切な支援の提供	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		支援開始前には、職員間で必ず支援計画を共有し、統一した支援を行うことができるよう努めております。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7		日々の支援内容を共通のツールに記録し、観察から得た気付きを活かすよう努めております。毎日の朝会で振り返りを行い、必要に応じて改善を行っております。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		ガイドラインに沿って、提供すべき支援「本人支援」「家族支援」「移行支援」及び「地域支援・地域連携」を踏まえて児童発達支援計画を作成し、都度利用者に必要な支援を行うようにしております。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		選任された活動担当が立案した活動プログラムを職員全体で共有し、検討、改善しております。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		5領域をバランスよく取り入れ、発達段階に応じて様々な運動、経験を通し楽しみながら次の学びへ繋がるよう工夫しております。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7		個々の発達状況や特性に応じて、個別活動と集団活動をバランスよく組み合わせる計画を作成し、支援しております。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		支援開始前に打ち合わせを行い、前回の活動の様子や利用者状況の確認や、当日の職員の動き方、支援内容について話し合いを行っております。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		シフト上当日の振り返りは難しい為、可能な範囲で行っております。翌日の朝会等で、職員間で振り返りを実施し、次回の支援に繋がるような意見集約を行っています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	2	支援内容の他に服薬や体調等についても記録し、多面的な情報から検証や改善が出来るよう努めております。	記録をするよう努めておりますが、不足が見られるため、意識的に取り組めるよう改善していきます。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		前期と後期にモニタリングを行い、取り組み状況について確認をしております。必要に応じて目標や具体的な支援内容の見直しを行うよう努めております。	
関係機関や保護者	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		管理者や児童発達支援管理責任者など、利用者や家族の状況をよく把握している職員が参画しております。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		各関係機関と連携し、必要な支援提供をする事が出来るように努めております。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7		平日のご利用がないため、日常的に園との交流がない状況ではありますが、必要に応じて情報共有や連携を図るよう体制は整えております。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7		移行の際には、各学校と情報共有し、相互理解を図るようにしております。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。					

との連携	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	7		必要に応じて助言や研修を受けるようにしております。	
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	7			現在、自宅から直接来所している為、日常的な交流の機会がない状況です。交流する機会については、今後検討していきます。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	7		日々保護者と情報を伝えあい、共通理解を図るよう努めております。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7		法人主催で外部講師の研修会開催し、保護者の積極的参加を促しております。事業所では、ペアレント・トレーニングを開催し家族支援の一助につなげております。研修の機会や情報提供等に努めております。		
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		運営規程や利用者負担等は、契約の際に説明をしております。支援プログラムについては、保護者へ説明しております。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		定期面談の他、必要に応じて面談を行い、利用者やご家族の意向を確認する機会を設けるよう努めております。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7		支援計画の説明は丁寧に言い、同意を頂いてから進めるようにしております。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		家族等から悩みや相談を受けた際には、早急に時間を設け、面談を行うようにしております。また、日頃から情報共有を図り、信頼関係を深められるよう努めるようにしております。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7		現在、保護者会の運営はございません。事業所では、保護者懇談会を開催し、保護者同士の交流する機会を設けました。	きょうだい同士で交流する機会においては、必要に応じて検討していきます。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		相談等を受けた際の体制は整備しております。相談等があった場合には、迅速に対応するように努めております。日頃からコミュニケーションを図り、悩みや不安等を共有するよう努めております。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7		毎月お便りを発行し、活動内容や日々の様子について発信しております。一方でSNSを新設し、災害時やその他の情報発信等に活用しております。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		文書や配布物、写真などを含め個人情報の取扱いは気を付けるよう日頃から職員間で確認し、努めております。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		それぞれの利用者、保護者に応じた意思疎通が出来るよう工夫し、配慮をしております。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7		事業所に招待する活動は実施しておりませんが、高齢者施設を訪問したり、地域行事への参加や商店への買い物を通して交流しております。	
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		各種マニュアルは玄関に配置し、いつでも閲覧できるようにしております。発生を想定した訓練は、年間計画に沿って、実施しております。	
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		利用者の安全確保と事業継続を目的とし計画を策定し、非常災害及び感染症発生に備え、定期的に内部研修と訓練の実施を行っております。	

非常時等の対応	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7		事前に服薬情報等把握し、職員全体で情報共有しております。面談時には、予防接種状況を確認し、把握できるようにしております。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7		保護者から情報を頂き、必要に応じてアレルギー検査書の提出を依頼しております。おやつを含め食事提供をする際には、職員間で周知し、対応しております。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7		安全計画を基に、年間計画に添って事業所内外や備品等について定期的に点検管理を実施しています。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7		安心安全に利用できるよう、送迎時や支援時の安全確保に関する取り組み状況を、お便りやSNS等で保護者へ周知しております。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		当日や翌日の朝会で職員間で共有し、早急に原因や対策をSHELモデルにて分析して、再発防止に努めております。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		法人内で虐待防止委員会を設置しております。虐待防止に関する理解を深めるよう、研修にも参加しております。また、年に4回、人権擁護チェックにて振り返る機会を設けております。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7		身体拘束を行う際には、法人全体で周知し、組織的な取り組みとなるようにしております。実施する際には、職員間で支援内容の見直しを行い、都度会議で検討しております。保護者には、都度説明しながら進めており、計画にも記載しております。	

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ひだまり水沢横町 児童発達支援		
○保護者評価実施期間	令和 8年 1月 5日		～ 令和 8年 1月 16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1名	(回答者数) 1名
○従業者評価実施期間	令和 8年 1月 5日		～ 令和 8年 1月 16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 1月 31日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	社会のルールをベースとした支援を、職員が統一かつ継続しておこなうことで、お子様が事業所の過ごし方やルールを理解し習慣化されています。 また、お子様への伝え方・分かりやすさについて常に職員間で検討し支援しています。	支援の中に様々な構造化を取り入れ、お子様にとって分かりやすい環境になるように努めています。過ごし方や先の見通しが分かることはお子様にとって大きな安心になると考えています。(例:活動や過ごし方により部屋を使い分ける。1人1人に合ったスケジュール様式を使用する。) また統一した支援が行えるよう打ち合わせを毎日行っています。	日々自分たちの支援を振り返り、課題の解決策・改善策だけではなくより良い事業所での過ごし方を提案出来るように新しい取り組みを検討していきます。
2	褒めて伸ばす支援に取り組んでいます。褒める支援をおこなうことで自己肯定感を高めます。また、職員とお子様の信頼関係を高めて良い関係性で支援をおこなうことで「行きたい!」と思ってもらえるような事業所を目指しています。	課題の取り組みや活動内容については、1人1人に合った内容を提供しています。スモールステップを設定することで、褒められる経験と「できた!」を感じられる場面を増やし、自信に繋がるように支援しています。	職員個々の支援スキル向上のため、内部研修・外部研修の機会を増やす検討をおこないます。 さらに「できた!」を増やすため、お子様の行動をよく観察すること、関係機関と連携することで、より細かいアセスメントを取りお子様の理解に努めます。
3	保護者には、お子様の様子や支援内容についてなるべく丁寧に伝えるように心掛けています。また、悩み事があった場合は保護者に寄り添い一緒に考えるようにしています。	お子様・保護者へ丁寧な対応を心がけています。(支援・言葉遣い・対応)保護者の悩みを聞いた際は一緒に考え、状況に応じて情報収集・情報提供をしています。お子様を「共に育てる」意識を持ち対応するようにしています。	日頃から保護者と情報共有をして話しやすい環境作りを目指します。保護者交流や親子で参加できるイベントも検討していきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員体制の充実化に課題がありました。職員体制が整わないことで保護者へご協力をいただいた時もありました。	今年度、国で定める職員配置基準を満たしていない日があり、職員体制が整わない日がありました。今後は法人で課題として取り上げ、改善策を見出ししていかなければならないと考えています。	国で定める職員配置基準や報酬改定に関して、常に新しい情報の収集・理解に努めます。
2	今年度は地域清掃や地域の介護施設訪問をおこないましたが、保育所・幼稚園との交流に課題があります。	感染リスク等を考慮すると積極的な地域交流や保育所・幼稚園等関連の企画を進められずにいる状況です。	介護施設との繋がりが出来たため、今後も交流の機会を増やしていけるように働きかけます。また、協力をいただける関係機関との関係構築に努めます。 他の児童との交流の際に配慮する点を検討します。(感染予防、企画内容等)
3	お子様の様子を見ながら保護者とゆっくりお話し出来る機会が少ないと感じています。また、親子で参加できるイベントや保護者同士が交流を持てる機会がありませんでした。	保育所・幼稚園との併行利用をしている為、時間を作ることに課題がありました。また、交流の機会やイベントを計画することに課題がありました。	1人1人のお子様・保護者へ向き合い相談援助出来るイベントを検討します。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 ひだまり水沢横町 児童発達支援

公表日 令和8年3月31日

利用児童数

令和8年1月16日時点

回収数

1名中 1名

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	1					お子様の活動に応じて部屋を分けて療育 しています。座って行う活動、運動、食 事等構造化しながら支援しています。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	1					配置基準を遵守しています。利用人数で 勤務者を決めています。 保護者へ事前に利用予定表を提出して頂 き、人数の多い日はサービス調整を行い 安全にお預かりできるようにしていま す。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思 いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や 情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	1					1つ1つの部屋は目的により使用を分けて います。どこで何をするかをルール化し ています。事業所内はバリアフリーに なっており、段差のない床になっていま す。スロープも完備されています。事業 所内のルール等も利用者がわかりやすい ように視覚で伝えています。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。 また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	1					お子様たちの過ごす環境には十分に配慮 し、掃除や換気、消毒の徹底をおこな い、安全に過ごせるように取り組んでお ります。
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援 が受けられていると思いますか。	1					お子様のアセスメントをおこない、1人1 人に合ったオーダーメイドの支援をおこ なっています。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と 合っていると思いますか。	1					支援プログラムの内容は活動計画に反映 させています。5領域を活動に取り入 れ、個別支援計画にも連動し支援してい ます。
	7 こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分 析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思 いますか。	1					お子様のアセスメントを日々の生活から くみ取り、保護者さまからの相談を踏ま えて計画を職員間で検討し、児童発達支 援管理責任者が立てています。何かあれ ばご相談ください。
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提 供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支 援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体 的な支援内容が設定されていると思いますか。	1					児童発達支援計画は児童発達支援ガイド ラインに沿って、国で定めている内容で 計画し作成しています。お子様の支援だ けではなく、家族への相談支援や申し送 り、関係機関との連携を行う「移行支 援」等、幅広い視点で支援をおこなって います。
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	1					個別支援計画は職員間で共有されてお り、利用している月ごとに必ず支援に取 り入れられるように児童発達支援管理責 任者が計画を立てながら進めています。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いま すか。	1					お子様1人1人のペースに配慮しながら活 動を考え、すべてのお子様に参加出来る ように計画されています。また、固定化 されないように新しい活動を常に検討し て計画しています。
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと 活動する機会がありますか。	1					利用中ではないですが今現在、全ての お子様が保育所と並行利用となっている 為、交流の機会が日常的にあります。
12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等につ いて丁寧な説明がありましたか。	1					その都度、文書を配布し説明をおこなっ ています。ご不明な点がございましたら 説明させていただきますので是非お声が けください。	
13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	1					個別支援計画は児童発達支援管理責任者 が説明をおこない、保護者様からのサイ ンをいただいております。不明な点がご ございましたら、是非お声がけください。	

14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	1					ペアレントトレーニングは今年度、低学年を対象に開催しています。今後も研修会などご家族様が参加できる機会がありましたらお知らせしていきます。
15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	1					関係機関、保護者、ひだまりで常に連携が取れるように意識し対応しています。共通理解できることでお子様の支援も統一化され、成長につながると感じています。保護者の方へは申し送りや連絡帳の他、だより等で活動内容を写真を取り入れ、お伝えするようにしています。お子様の健康の変化や発達状況は日頃からお伝えするようにしています。必要に応じて、お電話や面談をおこなう事もございます。
16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	1					年に1度は必ず、保護者面談をおこなっています。いつもご協力ありがとうございます。また、状況・必要に応じて面談や相談を受け付けております。お困りのことがございましたら是非ご相談ください。
17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	1					お子様の支援だけでなく保護者に寄り添った考えを持ち運営をおこなっていきたく考えています。たくさんの保護者様の声をお聞かせください。
18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1					保護者の交流が持てるよう事業所内で企画を検討していきます。ご意見がございましたら是非お聞かせいただくと幸いです。一緒に考えていけたらと思っています。
19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	1					お子様やご家族の方からご相談いただいた時に必ず時間を設けるようにしています。ご家庭でもお子様が何か悩んでいるなどのお話がありましたら職員へお知らせください。早急に対応します。また、同様に保護者様からのご相談にも対応していきますのでお気軽にお声がけください。
20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	1					保護者の方がお子様の悩みを抱えている場合、中間に入りお子様にわかりやすくお伝えすることもあります。個々に合わせ支援していますのでご相談ください。
21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	1					だよりは事業所から保護者へ毎月発行し、日々の様子や活動内容を掲載しています。連絡体制は今年度よりラインでお知らせをおこなうようにありました。緊急時等に活用していきますのでラインのご確認をお願いいたします。自己評価表の結果は毎年、ホームページに掲載し、保護者へ配布しています。また、事業所にも掲示しています。
22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	1					1人ひとりダブルチェックをおこないながら、保護者の書類を配布する事とし、職員へ周知致しました。個人情報の取扱いについては十分に気を付けていきます。定期的に職員へ周知し、個人情報の取り扱いについて、勉強する機会を設けるようにしています。(朝礼・職員会議)また、内部研修でも取り入れ周知しています。
23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	1					事業所内の点検は定期的に外部の業者に依頼しています。また、定期的に職員間で点検や確認を行い、緊急時に対応出来るように職員間で訓練しています。各マニュアルについては保護者へいつでも閲覧できるように事業所玄関に設置しています。

非常時等の対応	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	1				年間計画へ策定し、非常災害の発生に備え、活動に反映するようにしています。また、その訓練も行うようにしています。(地震・火災・AED等)
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	1				訓練等の取り組みは連絡帳や便りで保護者へ発信しています。また、ひやりはつとや事故が発生した際は必ず改善策を検討後に便りでお知らせをするようにしています。
	26	事故等(怪我等を含む。)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	1				事故が発生した場合は早急に対応・保護者へ報告をしています。また、必要に応じて県南振興局や市にも報告しています。事故やひやりはつとが発生した場合、改善策を検討後に便りにも掲載しています。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	1				活動内容だけでなく、普段の関わりも丁寧におこなうように心がけています。今後もお子様と保護者の方との信頼関係を築けるよう努力して参ります。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	1				お子様が楽しみに通えるよう、日々の活動内容を職員間で検討しています。学校代休日や長期休み中に普段体験や経験の出来ない外出支援やグループ活動を取り入れるようにしています。アンケートボックスを設置し、お子様からのリクエストや要望を聞きなるべく叶えられるように努力しています。難しい時には分かりやすく丁寧に説明をするようにしています。
	29	事業所の支援に満足していますか。	1				お子様、保護者共に安心してご利用できるように信頼関係の構築に努めます。また、専門的な支援が行なえるようにスキルの向上に努めます。ご不明な点等がございましたら、お気軽に職員までお声掛けください。

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		ひだまり水沢横町 児童発達支援				公表日	令和 8年 3月 31日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		集団で過ごせる広い部屋の他に、利用者が使用できる個室が5部屋あります。部屋は構造化されており、どこで何をすることが分かるようになっています。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7		配置基準を遵守しています。利用人数で勤務者を決めていきます。事前に利用予定表を提出して頂き、利用人数の多い日はサービス調整を行い安全にお預かりできるようにしています。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		各部屋ごとに構造化し、利用者がどこで何をすることがわかりやすく提示しています。完全なバリアフリーとなっており、トイレも広く車椅子の方でも利用しやすくなっています。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		常に換気を行っています。定期的に事業所内や玩具、車内の消毒を行っています。また活動内容に応じて部屋を変えて支援しています。(運動、制作活動等)		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		集団が苦手な利用者や個別対応が必要な場面で、個別の部屋を使用しています。利用者が申し出た場合にも、部屋別の部屋を提供しています。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7		毎日の朝礼や職員会議、モニタリング会議等で職員に目標の周知、振り返りの話し合いを行いPDCAサイクルを実行しています。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		年に1回、保護者へ評価表アンケートをお願いしています。保護者の声を真摯に受け止め、職員間で改善に向けて取り組んでいます。取り組んでいる内容は便りでお伝えしています。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		日々、支援や業務に関する内容は職員間で話し合う機会を設けています。全職員で一丸となり取り組み、業務改善につなげています。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7		第三者による外部評価は受けていませんが、苦情・ひやりはっと・事故を第三者委員と顧問弁護士へ報告する機会を設け、助言を頂いています。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		事業計画の中に研修計画を策定し、毎月の内部研修や外部による研修の機会を設けています。職員の経験年数に応じて研修へ参加しています。法人で行う全体研修にも参加しています。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		事業所で作成した支援プログラムを保護者へ配布しています。またホームページで公表もしています。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7		日々利用者のアセスメントを取り、課題を整理しています。また保護者が悩んでいる課題や近い将来必要なスキルの習得等、客観的に分析し児童発達支援計画を作成しています。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		児童発達支援管理責任者を中心に職員間で児童発達支援計画やモニタリングについて検討しています。また、自己肯定感が高まるように褒める支援を心掛けています。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		児童発達支援計画が職員間で共有できるよう、具体的支援内容を視覚化しています。また朝礼等で再確認しながら支援を行っています。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7		法人で統一したアセスメントシートを活用しています。また、個々に合わせた支援ツールを準備しアセスメントに活用しています。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		ガイドラインの「本人支援」「家族支援」「移行支援」及び「地域支援・地域連携」を踏まえて児童発達支援計画を作成しています。利用者個々に合わせた具体的な支援内容を設定しています。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		活動プログラムは児童発達支援管理責任者を中心に職員がチームとなり立案を行っています。5領域を網羅するように工夫しています。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		活動プログラムは5領域をバランス良く取り入れ、日々利用者が意欲的に取り組める工夫をしています。事業計画の中にも季節に合わせて行事を入れ、計画通りにプログラムを作成しています。		

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7		それぞれの利用者の状況や特性に応じて、適切な療育を受けられるように個別と集団の活動を組み合わせた児童発達支援計画を作成し、支援しています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		毎朝の朝礼で、当日の支援内容について打ち合わせをおこなっています。それぞれの利用者に向けた支援ツールや、職員の役割分担についても細かく確認して支援しています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		翌日の朝礼で必ず支援の振り返りを行い、気付いた点や課題を共有しています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		利用時は必ず記録を取り、事業所の活動内容だけでなく、関係機関や家庭状況なども細かく記録しています。また、記録を基に支援の検証をし改善策の検討に役立っています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		年2回モニタリングをおこない、計画の具体的支援を実行しているか、利用者の目標達成度はどうか振り返りをしています。必要に応じて目標や支援の見直しをします。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		基本的に利用者の状況を良く理解している児童発達支援管理責任者、または担当者が出席しています。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		必要に応じて関係機関との連携を図り、情報共有をおこないながら支援をしています。（行政、学校、障がい福祉、医療）	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7		保護者や相談員と共に、ひだまり水沢横町と保育所との並行利用を推進しています。並行利用や移行する場合は必ず、保育所への見学や情報提供する機会を設けて連携を図っています。その後も見学や情報交換を行い支援しています。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7		就学児の移行に関しては進学する学校先へ情報提供をおこない、その後も普段から情報共有をしています。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	7		自立支援協議会の療育部会等でも連携を図っています。また、必要に応じて支援会議を設け、助言を頂いております。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		7		利用中ではないですが、今現在、全ての利用者が保育所と並行利用となっている為、日常的に交流の機会があります。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7			利用時には事業所での様子や支援内容を保護者へお伝えしています。また、家庭や保育所での様子もお聞きし、利用者の状態について細かく情報共有をしています。連絡帳でのやり取りも毎回おこなっています。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7			今年度、事業所でペアレントトレーニングを実施しました。参加のお声掛けをする際に、ペアレントトレーニングの説明をおこないました。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7			契約時に説明をしています。支援プログラムについては、保護者へ配布・ホームページへ公開しています。	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7			計画を立てる際は保護者と面談を行い、意向を確認しながら進めています。また、モニタリングの際にも聞き取りをおこなっています。	
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7			必ず支援計画の内容説明をおこない、保護者から同意を得てから支援を進めています。同意のサインも頂いています。	
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7			保護者から直接相談を頂いた際には、早急に時間を作り面談をおこなうようにしています。また、相談員からの情報提供を受け、保護者へ必要な助言を行うこともあります。	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7		保護者同士が交流できるように懇親会の機会を設けることを予定しています。是非ご参加ください。	
	40	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		毎年1回保護者面談を実施しています。また、相談を受けた際には悩みについて共に考え助言しています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7		毎月、事業所から便りを発行し、事業所の活動内容や利用者の様子等をお伝えしています。緊急時の連絡についてや、苦情要望があった際の流れも便りでお伝えしています。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		定期的に職員へ周知する他、個人情報の取り扱いについて勉強する機会を設けるようにしています。(朝礼・職員会議) また写真や名前の外部掲載についても都度保護者に確認をとっています。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		利用者支援や保護者支援に関する内部研修を行い、適切な対応が出来るようにしています。相手の特性や背景に合わせて、分かりやすい伝え方をするように配慮をしています。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7		地域の商店での買い物や外食をおこないました。また今年度は地域の介護施設へ出向き、交流を図りました。定期的に地域清掃も行っています。(ゴミ拾い・草取り)	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		各マニュアルは、保護者がいつでも見られるように事業所玄関に設置しています。設置していることは便りで周知しました。発生した際の訓練や勉強会を実施しています。	
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		非常災害の発生に備え策定し、活動内容に反映するようにしています。また、訓練も行行うようにしています。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7		利用前の面談時に母子手帳を持参していただき、予防接種の確認を行っています。また、服薬状況や既往歴については詳しく聞き取りを行い、記録しています。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7		アレルギーに関しても利用前の面談時に聞き取りをおこなっています。必要に応じてアレルギー検査書の提出をお願いし、対応しています。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7		安全計画に沿って研修への参加・職員への伝達をおこなっています。ひやりはつとや事故が起きた際はSHELモデルを用いて、広い視野で対策について話し合い改善しています。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7		安全計画に関してはホームページに掲載している事を周知しています。また、訓練等の取り組みは連絡帳や便りで発信しています。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		ひやりはつとが発生した際は早急に対策について話し合い、広い視野を持ち検討出来るようにSHELモデルを用いて検討しています。ひやりはつとと対策については便りで保護者へ周知しています。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		法人内で委員会を設置し、事業所からも委員が参加しています。また、虐待防止に関する研修への参加に加えて法人内の研修も実施しています。年に4回人権擁護チェックに取り組み支援の振り返りを行っています。		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7		身体拘束を行う際は法人全体に周知し、対応しています。また身体拘束を行う際は、都度会議を開き支援内容の見直しをおこなうようにしています。保護者にも都度説明をおこないながら進めます。		

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ひだまり胆沢 児童発達支援		
○保護者評価実施期間	令和8年1月5日		～ 令和8年1月16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	利用実績なし	(回答者数)
○従業者評価実施期間	令和8年1月5日		～ 令和8年1月23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○事業者向け自己評価作成日	R8年 2月3 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	それぞれの理解度や発達に合わせ、将来に向けた支援を行っています。	今まで、職員が行っていた事を利用者の成長に合わせ、一緒に挑戦しています。	「できないだろう」ではなく、「どうしたらできるようになるか？」に意識を向け、さらに挑戦する場を設け取り組んでいます。
2	音楽が得意な職員がいる事で演奏を通し、利用者同士の交流を深める事ができています。	利用者の得意な事を見極め、演奏に活かしています。	保護者等へ発表する機会を定期的に設け、目標を定める事で、さらに意欲的に取り組めるようにしていきます。
3	事業所の近くに就労支援事業所がある事で明確な目標をイメージする事ができています。	年に数回、その事業所より商品を購入し、おやつに使用したり、販売に来てもらう事で話題になるようにしています。	実際に店舗に行き、働いている様子を見る事で「働く」という事がどのような事か知る機会を設けるよう取り組んでいます。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用される方がいない状況により、対象児に対する支援を実践する機会がありませんでした。	利用の申し込みを受けた際には、すぐに対応できるよう、学びの時間を設けていく必要があると考えます。	日々の学びや学んだ事の振り返りを行い、スキルの向上に繋がるよう取り組みます。
2			
3			

	公表	保護者等からの事業所評価の集計結果
--	----	-------------------

事業所名	ひだまり胆沢 児童発達支援
------	---------------

公表日 令和8年 3 月 31日

利用児童数 利用実績なし 年 月 日 回収数 0

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。						
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。						
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。						
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。						
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。						
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。						
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。						
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。						
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。						
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。						
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。						
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。						
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。						
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。						
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。						
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。						
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。						
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。						
19	こどもや家族からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。							

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。					
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。					
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。					
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。					
	29	事業所の支援に満足していますか。					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ひだまり胆沢 児童発達支援				公表日	令和 8 年 3 月 31 日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		ホワイトボードやパーテーションを使用し、用途に合わせたスペース作りに努めています。	活動と勉強スペースが混同してしまうことがある為、職員間で情報共有し、混同しないようしていく必要があると考えます。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	1	国の配置基準は満たしています。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	1	・玄関から室内は段差がなく、車椅子の利用者も移動しやすくなっています。 ・トイレが狭い為、トイレに入りやすい車椅子に移乗してもらい介助しています。	トイレが狭く、介助しにくいです。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		・毎日、清掃、消毒を実施しています。 ・清掃後は、チェック表に記入し、職員間で情報共有できるようにしています。	玄関付近や棚等の掃除を忘れがちになる為チェック表に記入欄を設けるか、当番制にする等、意識付けが必要と考えます。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		状況に応じて、使用できるようになっています。	部屋の使用の仕方について、再度、ルールの周知は必要と考えます。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5		毎日の朝会や月に一度の職員会議で全職員で目標設定、振り返りを行っています。	話し合いは行っているが実施までに時間を要する事がある為、達成時期等の目安も必要と考えます。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		保護者からの意見を職員間で情報共有し、改善に努めています。	事業所内だけでは改善できない点については本部との相談が必要と考えます。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		毎日の朝会や月に一度の職員会議で意見を出し合い、改善に努めています。	意見を出しやすくする為、事前に話し合う内容を伝える等の工夫が必要と考えます。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		5	実施しておりません。法人全体の取り組みの為、確認しながら進めています。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		外部研修は内容に応じて参加できるよう努めています。法人内研修も定期的に実施されています。	外部研修への参加機会が職員によって、偏りがある為、全職員が参加できるよう検討が必要と考えます。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		年度初めに作成し、法人のホームページにて公表されています。	ホームページで公表されている事を知らない保護者がいる為、周知が必要と考えます。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5		・契約時に提出して頂いた資料や面談等を通して保護者のニーズを確認しています。 ・常に利用者それぞれの課題を把握し、職員間で情報共有し、計画に活かしています。	保護者のニーズと利用者のニーズにズレがある時があり、内容のすり合わせが必要な場合があると考えます。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		6か月に一度、職員間で話し合い、利用者に合わせて支援ができるよう話し合いを実施しています。	話し合った内容が職員全体に情報共有できていない事がある為、都度、確認が必要と考えます。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		活動計画にサービス計画の内容を実施する日を設け、意識的に取り組めるようにしています。	内容を把握せず、取り組む様子も見られる為、職員間での周知徹底が必要。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		それぞれの成長や理解度に合わせたツールを準備し、支援できるようにしています。	ツールの準備が間に合わない時もある為、誰が準備を行うのか明確にする必要があると考えます。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		ガイドラインに沿った内容で作成し、具体的な支援内容も話し合いを行い、設定しています。	「地域支援・地域連携」は現状少ないので、今後、増やしていけるか検討が必要と考えます。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		毎月、違う職員が活動計画を立てるようにしています。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		毎月、同じ内容にならないよう、他事業所等の計画を参考に作成しています。	同じ内容になってしまう為、意見を言い合える環境作りが必要と考えます。	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5		個別で行う制作や集団でのゲーム遊び等を組み合わせ、計画を作成。それぞれの活動に沿った支援を実施しています。	今後も利用者が楽しみながら学べるような活動を作成していきたいと考えます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		朝会で確認し、統一した支援ができるよう努めています。	朝会に参加しない職員に伝わっていない場合がある為、都度、確認が必要と考えます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		その日の夕方、もしくは次の日の朝会で振り返りを行い、実施する際に活かすようにしています。	・振り返りを行っているが、次に行う時に活かされていない時がある為、確認が必要と考えます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		利用者それぞれの連絡帳、職員連絡帳に記録し、支援の見直しに活かしています。	活動の内容のみの記入が多い。他の様子を記入するよう心掛ける必要があると考えます。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		6カ月に一度、職員間で話を行い、利用者に合わせて支援ができるよう話し合いを実施しています。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		管理者または児発が参加しています。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		活動時には選択ができるよう種類を増やしたり、利用者の声を尊重したりし、自己決定する力が育つよう支援を行っている。	自己選択がしやすいような準備が必要と考えます。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		管理者または児発が参加しています。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		実績はありませんが利用前に見学に行ったり、資料をもらう等し、情報共有に努めています。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。			現在、実施していませんが利用者がある場合には助言等を受ける機会を設けていきます。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	5		感染症の観点から、今現在、実施しておりません。	地域の他の子供との交流を望まない保護者もいる為、慎重な対応が必要と考えます。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		利用時の連絡帳や送迎時には、その日の様子を情報共有しています。	自宅送迎等で、直接、保護者と話ができない場合には電話等での情報共有が必要と考えます。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5		保護者懇談会を実施し、参加した保護者へはペアトレの紹介を行っています。	詳細までは発信できていない為、研修単体での実施が必要と考えます。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		実績はありませんが利用者がある際には丁寧な説明を行うよう努めます。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		年度初めの面談で意向確認を行っています。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5		内容を一緒に確認し、その場で同意を得られるようにしています。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4	1	年に一度の面談の他に、必要に応じて、個々に面談や電話での相談を受け、助言等を行っています。	平日の午前中の来所をためらっている保護者もいる為、茶話会などの開催に努めています。

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5		保護者会はなくなった為、事業所で懇談会やクリスマス会等のイベントを開催し、交流する場を設けています。	参加する保護者が限定されてきている為、お便り等で情報発信し、興味を持ってもらえるようにする必要があります。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		相談や要望があれば、時間を設け、丁寧に対応する体制を整えています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5		月に一度のお便り、グループラインでの情報発信を行っています。	・ホームページ等が活かされていない為、今後活用していく必要があると考えます。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		・写真掲載は保護者の許可を得て実施しています。 ・個人情報の取り扱いには気を付けるよう事業所で職員に周知しています。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4	1	個々に応じたツール、文字、絵カード、ジェスチャーを交えながら、意思疎通が出来るよう配慮しています。	全職員が同じように意思疎通ができるよう努めていく必要がある。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	1	感染症の観点から、今現在、実施しておりません。	保護者への周知が不足している為、今後、お便り等で発信していく必要があると考えます。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	1	・各マニュアルの策定は法人でしています。 ・年に3回訓練を実施しています。	保護者への周知が不足している為、今後、お便り等で発信していく必要があると考えます。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		業務継続計画は策定し、年に3回避難訓練を実施しています。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5		保護者を通じて、情報提供を受けています。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		保護者を通じて、情報提供を受けています。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		職員会議で情報共有し、安全に支援ができるよう努めています。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		年度初めの面談で確認を行っています。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		ヒヤリハットが起きた直後、または次の日の朝会で検討を行っています。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4	1	定期的に内外の研修を受け、虐待防止に努めています。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5		今現在は行っていませんが、丁寧に対応し、子どもや保護者の了解を得て実施する体制を整えています。		

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ひだまり水沢☆きらり 児童発達支援		
○保護者評価実施期間	令和8年1月5日		～ 令和8年1月16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○従業者評価実施期間	令和8年1月5日		～ 令和8年1月16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月26日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	重症児、医療的ケア児に特化した事業所である為、専門職からの話を聞くことが出来る。 又、送迎時保護者の方には時間をかけて情報提供をしています。	小児科医、理学療法士、看護師等からの話は常に職員、保護者の方と情報共有をしている。 それにより個人に合った身体へのアプローチ、又、個別支援計画に沿った療育を行っている。	専門職の先生の来所時には、どんどん保護者へ声を掛け、日頃の困り感や心配事などの聞き取りを行い、今よりももっと事業所に来て頂くようにしたい。 職員、保護者ともに先生たちのお話を聞く機会を設けたい。 職員のレベルアップを図りたい。
2	関係機関との他職種連携が出来ている。	並行通園の利用児童に関しては、支援会議を開き共通理解を図っている。 又、子ども発達支援センターと情報共有をしている。	他職種の方達と今まで以上にこまめに連絡を取り、職員間でも情報共有します。
3	同年代による集団生活はできないが、個々にあった手厚い支援が受けられる。	個人の能力が引き出せるよう個人個人に時間をかけている。	今まで以上に5領域に沿った総合的な支援、療育を目指し、より多くの経験を積み成長を促します。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	情報発信の仕方、説明不足。	職員側の発信の仕方が不足していると感じる。又、避難訓練、災害時避難についても情報発信が少ないと思われる。	毎回、保護者には丁寧な話と情報交換が必須と考える。お便り、連絡帳で発信していたが伝わっていなかった。避難訓練、災害時避難についても今まで以上に丁寧に情報発信をしていかなければと考える。
2	他保育園、こども園との交流はしていない。又、地域との交流も積極的にしていない。	利用児には保育園との並行通園している児童もおり、健常の児童たちとたくさん触れ合いながら成長している子どももいる。 健常者の子ども達との交流に関しては慎重な考えの保護者もいる。	保護者の意向に沿いながら計画を立てていく。
3	保護者同士の交流の場が少ない。	保護者会がない為に、保護者同士が交流する場所がなく、イベントを考えても仕事を持つ保護者では参加が難しいと思われる。	今後は、定期的に保護者同士の茶話会やご家族で楽しめる活動を企画したい。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 ひだまり水沢☆きらり 児童発達支援

公表日 令和8年3月31日

利用児童数 5名

回収数 5名

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	5				
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	4	1			利用人数に合わせ職員の配置をしています。多くの介助を必要とする児童に対し、職員が1名増えています。子ども達が安心して過ごせるよう職員間で見守りを強化していきます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	4	1		●車イスの方、小さい赤ちゃんが多く集まると狭いではと思う時がある。	150%の利用定員になる場合には、狭く感じるがありますが、おもちゃで遊ぶ場所、休憩する場所、昼食をとる場所と決めて構造化しています。多目的ホールや指導訓練室等をうまく使用し、狭く感じることはないよう適切な空間作りをしています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	4	1			
適切な 支援 の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	5			●専門の先生が来て下さりありがたいです。それを職員の方もやって下さり、更にありがたいです。「家でも頑張ります。」	
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	5				
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	5				
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	5				
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	5				
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	4			1	動作法訓練、リハビリ等固定化している活動もありますが、本人支援として5領域の活動ができるよう支援プログラムを組み活動に取り入れています。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	1	2	1	1	●地域で他のこどもと活動する機会はないが、利用されている子どもが他の小学校・幼稚園から来ている子なので事業所内で交流できているのかなと思う。 健常者の子ども達との交流に関しては慎重な考えの保護者様もいる中で、利用児には保育園との並行通園をしている児童もおり、健常の児童たちとたくさん触れ合いながら成長している子どももいます。今後は保護者様の意向に添いながら計画を立てていきます。
12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	5					
13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	5					
14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	4		1		ペアレント・トレーニングについては職員が研修を受けています。重症児・医療的ケア児を支援する☆きらりでは保護者様に寄り添い支援方法を保護者様とともに共有し、支援しています。家族等が参加できる研修会についてはアライオン若手の会、全国・若手県重症心身障害児を守る会等の研修会チラシを個々に配布し、玄関にも掲載しています。	
15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	5					

保護者への説明等	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	4			1	送迎時または改めて時間を設け、聞き取りの機会を作り保護者様からの悩みや相談は傾聴し、支援を心掛けています。医療的ケア児や発作がある児童に関しては看護師が聞き取りを行い、必要な助言を行っています。今後も保護者様に寄り添いながら丁寧な説明をしていきます。	
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	5				●利用者様に寄り添った支援をしてくれていると思います。	
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	3	1	1		●クリスマス会や行事など、他の家族や職員の方と交流する機会を作っていただきありがとうございます。仕事が忙しく参加できないのが残念です。	スプリングコンサートやクリスマス会を企画し、保護者様や兄弟姉妹にも参加を促し、保護者様同士の交流の場を設けています。今後は定期的に保護者様同士の茶話会などを企画して更に交流を深めていこうと考えています。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	4	1				保護者様の意見・要望は最大限受け入れる態勢を整えています。難しい場合には何故できないのかを丁寧に説明し、納得して頂いています。苦情に関しては苦情受付担当者と責任者を配置し、毎月のお便りにも掲載しています。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	5					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	5					●☆きらりだよりに写真が沢山掲載され、いつも嬉しく思います。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	5					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	4			1	玄関先いつでも閲覧できるようにマニュアルを配置しています。面談時にはマニュアルについても保護者様へ丁寧な説明をするよう心掛けます。職員間ではマニュアルの読み合わせをし、周知してすぐに動けるようになっていきます。今後は様々な発生を想定した訓練を実施し、子ども達の安全強化に努めます。	
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	3			2	地震・火事・水害を想定し、年4回の避難訓練を実施しています。水沢☆きらりは災害があった場合の避難場所になっています。保護者様へも水沢☆きらりが避難場所になっていることを周知して頂くよう情報を共有してまいります。	
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	4			1	重症児・医療的ケア児は看護師が保護者様から聞き取りを行い、安全に支援できるよう職員間で情報を共有しています。誤嚥などの危険がある児童やてんかん発作がある児童に関しては、記録をとり情報を共有した中で支援を行っています。	
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際状況等について説明がされていると思いますか。	3	1		1	起こった場合には報告書を必ず作成し、保護者様へは丁寧に説明をしています。何故起こったのかを職員で検証し、反省点を踏まえ、同じ事が繰り返されることのないように職員間で注意し見守りを強化するよう努めています。	
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	5					
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	4			1	「わからない」との評価がありこの結果を真摯に受け止め、子ども笑顔がたくさん出るような活動や他のお友達とのコミュニケーションもたくさんとれるよう職員一同努力していきます。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	5				●お迎えが遅くなることもあり、ご迷惑をかけていますが、いつも温かくありがとうございます。様子を細かく伝えて下さるので安心できます。キャンセルもすぐにお知らせいただきありがとうございます。	

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		ひだまり水沢☆きらり 児童発達支援		公表日		令和8年3月31日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		●150%の利用定員になる場合には狭く感じることがあるが、多目的ホールや指導訓練室等を物品の収納をこまめに行い、うまく利用している。	●150%(8名)利用になると部屋は狭いと感じている。車椅子やバギーを使用している児童が多いため部屋を分け、児童の行動パターンを予測し、子ども達が安心して過ごせる適切な空間作りをしていく。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	1	●150%の利用定員になる場合には、常勤職員全員配置している。	●定員に対しては妥当な職員配置であるが、介助を必要とする利用児童に対し、不便をかける場合もあり、又、送迎に職員がとられる為、職員の疲労もある。子ども達の見守りを強化し、職員の休憩時間を確保することが課題である。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		●全ての部屋がバリアフリーになっている。 ●定期的に設備・危険箇所の点検を行い、安全に過ごせる環境作りをしている。	●部屋に段差がある場所はないが、マットを敷いている為、その段差に気をつけなければならない場面がある。子ども達の見守りを強化することで改善できると考える。 ●玄関には段差はあるが、移動式のスロープを設置できるようにしている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		●清掃、消毒、換気は毎日行っており、記録表を準備し記録している。	●今後も毎日の記録をとり、心地よく過ごせる環境づくりを心掛けていく。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		●子ども達の状況により部屋を使い分けられる環境になっている。 ●限られたスペースの中で、職員同士で声を掛け合い、それぞれが過ごせる様場所を確保している。	●今後もおもちゃで遊ぶ部屋や午睡で休む部屋など区別し、体調が優れない子は個別に休めるよう部屋を区別していく。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8		●朝礼や職員会議で話し合い、児童達の横子を職員間で共有しながら、都度振り返りを行い、児童一人ずつの共通理解を図り、支援につなげている。	●今後も都度の振り返り、問題が出た場合には早急に話し合いの場を設け、子ども達が安全に過ごせるよう努めていく。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		●年1回の保護者向けアンケート調査を行い、結果については職員間で共有し業務改善に努めている。	●常に保護者とは情報共有し、要望・意見は出来る限り聞き、業務改善に努めていく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		●朝礼時や職員会議などに話し合い業務改善に努めている。	●今後も職員の意見など都度話し合いを続け、業務改善に努めていく。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8		●外部監査・内部監査を受けている。	●指摘事項はないが、改善すべき所は都度、職員間で話し合い改善していく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		●新人研修や他の研修を受ける機会があり、研修後のレポート作成もある。 ●様々な研修を受講する機会がある。 ●研修を受けた者が事業所内研修で伝達をしている。 ●医療的ケアが必要だったり、てんかん発作があったりへの対応の為、研修を受け詳しく情報を共有している。	●機会は確保されているが、朝からの利用児童が多い場合、受講するのが難しい場合がある。 ●全員参加で研修を受けることは難しいが、重症児・医ケア児の研修は曜日を変えて受けるように努力している。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		●ガイドラインの発達5領域や子どもの発達段階に合わせ職員間で話し合い適切に作成されている。 ●保護者へも面談時に説明し、個別支援計画と一緒に渡している。 ●全職員が把握できるよう個別支援目標を一覧にして掲示し、それに向けた支援ができるようになっている。	●今後も子ども達の発達段階に合わせ職員間で話し合い適切に支援プログラムを作成していく。都度、保護者へは支援プログラムの丁寧な説明をしていく。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8		●一人ひとりの子どもが現在どのような状況なのか、現在支援すべきことは何なのかを職員間で話し合い、支援計画を作成している。	●今後も子ども達の今の状況を把握し、保護者のニーズも踏まえて、安全に過ごせる支援を心掛け継続していく。	

13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		<ul style="list-style-type: none"> ●関わる職員そして看護師や理学療法士の意見も聞きながら、子どもにとって最善の利益を考慮した検討が行われている。 ●モニタリングや職員会議で個々の情報共有が出来る機会を設けている。 	●主体的にならないように職員全員で5領域を念頭に作成していく。
14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		<ul style="list-style-type: none"> ●それぞれの個別支援計画を書き出し表にして張り出している。 ●週に1度は必ず活動に個別活動を入れ、余暇の時間にも計画に沿って支援している。 	●今後も5領域を必ず取り入れる取り組みを継続していく。
15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8		<ul style="list-style-type: none"> ●気になる行動は個別特記として記録している。その中で行動が気になる利用児童に関してはスケジュール等のツールを使用し日々行動を観察し記録を残している。 	●スケジュールにSSTを組み込み取り組むことなど、日々の行動観察を記録にとり、職員と情報共有、確認することを今後も継続していく。
16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		<ul style="list-style-type: none"> ●ガイドラインに沿って支援プログラムに掲載している支援に必要な項目が適切に設定され、具体的な支援内容を掲載し、保護者へも説明している。 ●個別支援計画・モニタリングにも具体的な支援内容として掲載している。 	●今後も支援プログラムの具体的な支援内容に取り組むように努力していく。
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		<ul style="list-style-type: none"> ●専門的支援方法については動作法やストレッチを強化し支援している。 	●重症児・医ケア児の為に職員が療法士より教示を受け、日々動作法やストレッチをしており、今後も継続していく。
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		<ul style="list-style-type: none"> ●リハビリ、動作法訓練等固定化しているもの以外は、本人支援として様々な経験ができるよう工夫している。 ●季節に合った活動内容を取り入れるようにしている。 	●活動が利用児童にとって楽しくそして様々な経験ができるよう継続していく。
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8		<ul style="list-style-type: none"> ●集団活動と一人ひとりのリハビリ等を組み合わせる支援している。 ●集団活動として音楽療法を取り入れている。その特性・成長に合わせてグループ分けを行っている。 	●身体面や発達面で違いがある為、職員間で話し合いをし、全員活動に参加できるよう工夫し支援している。
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		<ul style="list-style-type: none"> ●朝礼で毎朝打ち合わせを行い役割分担の確認を行っている。 	●気になることがある場合には、その日のうちに話し合い情報共有をし、チームで連携して支援を行っている。
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか。	8		<ul style="list-style-type: none"> ●気づいた点は必ず職員連絡帳に記入し、気になる事がある場合には、その日のうちに話し合いをしている。 ●翌日の朝礼時に前日の振り返りを必ず行い、職員会議時にその月の活動の振り返りを行っている。 	●児童の健康状態やケアに関する事は必ず職員で共有している。
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		<ul style="list-style-type: none"> ●個人の連絡帳や職員間の連絡帳、また保護者からの情報などについても記録を取るようにし、必要に応じて支援の検証・改善を行っている。 	●今後も気になる事は必ず記録を取り、子どもにとって良い支援に繋げるようにしていく。
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		<ul style="list-style-type: none"> ●PDCAサイクルに沿って年2回のモニタリングを行い、適切な見直しを行っている。 	●モニタリングは保護者へ説明し振り返りを行い、保護者の意向も踏まえ児童発達支援の計画を見直している。
24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		<ul style="list-style-type: none"> ●児童発達支援管理責任者と場合によっては看護師が参画している。 	
25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8		<ul style="list-style-type: none"> ●医療に関しては保護者からの経由が多いが、必要時は必ず協力体制を取り、対応している。連絡体制は整えている。 	
26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8		<ul style="list-style-type: none"> ●併行通園する保育園や幼稚園とは連絡を密に取り、嚙下障害の児童の食事風景や事業所での過ごし方等、それぞれの保育園や幼稚園と情報共有し共通理解を図っている。 	●水沢☆きらりの職員が保育園での過ごし方や支援会議に参加し、相互理解に努めている。
27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8		<ul style="list-style-type: none"> ●就学児には支援内容等の情報共有をし相互理解を図っている。 	●今後も伝えていかなければならない内容等は情報を提供し、相互理解に努める。
28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				

関係機関や保護者との連携	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	8		●地域自立支援協議会、医療的ケア児等支援部会の部会長として管理者が参加している。自立支援協議会、療育部会情報交換会に児発管が参加し、職員と情報共有している。	●今後も地域の情報交換会に参加し、スーパーバイズの助言等を受け、地域との連携を図っていく。
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	8		●健常者の子供達との交流に関しては慎重な考えの保護者も多く、活動の機会は見附せている。 ●事業所主催ではないが、チラシ等で参加の機会を作り参加できている家庭もある。 ●事業所として一緒に活動する機会はないが、子ども園、幼稚園と連携し並行通園できるようにしている。	●児童発達の利用児には保育園との並行通園をしている児童もいる。今後は保護者の意向に添いながら計画を立てていく。
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	8		●連絡帳に日頃の状況を伝えたり、送迎時などにその日の様子を口頭で伝え保護者からも話を聞いている。	●今後も積極的に関わりを持ち発達状況や課題について話し合いを共通理解をしていく。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8		●ペアレント・トレーニングについては職員が研修を受けている。重症児・医療的ケア児を支援する☆きりりでは保護者に寄り添い支援方法を保護者とともに共有している。 ●重症心身障がい・医療的ケアに対するの悩みや相談に関しては当事者でもある管理者が対応し支援を行っている。 ●家族等が参加できる研修会についてはアイライン岩手の会、全国・岩手県重症心身障害児を守る会等の研修会チラシを個々に配布し、玄関にも掲載している。	●今後も職員としての専門性向上のために研修等に参加して理解を深めていく。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		●契約時には説明をしている。なるべくわかりやすく説明するように心掛けている。	●今後も保護者に疑問点や質問があればその場で回答、解消できるように努めていく。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		●子どもの最善の利益を最優先に考え、保護者の意向を確認し、児童発達支援計画を作成している。	●今後も保護者の意向を確認しながら子どもの最善の利益を最優先に考え、保護者と話し合いの場を設け作成していく。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8		●年2回のモニタリングを行い支援計画の見直しをし、保護者とは必ず面談の機会を設け説明し、同意を得ている。	●今後も丁寧な説明を心掛ける。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		●送迎時または改めて時間を設け、聞き取りの機会を作り保護者からの悩みや相談には出来る限り傾聴し支援を心掛けている。	●医療的ケア児や発作がある児童に関しては看護師が聞き取りを行い必要な助言をおこなっている。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8		●保護者会からのお知らせ等は事業所で配布している。スプリングコンサートやクリスマス会を企画し、保護者や兄弟にも参加を促し保護者同士の交流の機会を設けている。	●今後は定期的に保護者同士のお茶会などを企画して交流を更に深めていこうと考える。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		●保護者の意見・要望は最大限受け入れる態勢を整えている。難しい場合には何故できないかを丁寧に説明し納得して頂いている。	●苦情に関しては苦情受付担当者と責任者を配置し毎月のお便りにも掲載している。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8		●毎月1回きりりだよりを発行している。在宅の利用児童にも必ず発送している。HPにも活動の様子や行事の様子は必ず掲載している。	●契約時に広報誌・HP(氏名・写真・年齢)に掲載することについて同意書に「同意します」との署名を頂いている。「同意しません」の場合は掲載を控えている。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		●個人情報は常に注意を払うように心掛けている。 ●職員一人ひとりが守秘義務について理解している。	●個人ファイルは鍵付きの書庫にファイルしており、職員以外が閲覧できないようになっている。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		●重症児・医療的ケア児の場合にはお話できる子は何を望んでいるのか、自分が話せるまで待ち、お話ができない子は表情や体の動きを見ながら、何がしたいのかを職員間で共有しながら支援している。	●保護者には言葉使いに配慮しながら、丁寧な説明をしている。

	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	<ul style="list-style-type: none"> ●水沢☆きらりの児童達は風邪でも重症化する児童が多いため、感染症が心配され控えることが多い。 ●地域住民を接待する活動はないが、地域のお店で買物する活動を取り入れている。 	●地域にはお知らせ版や広報等を配布し、開かれた事業運営ができるよう努めていく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	<ul style="list-style-type: none"> ●玄関先にいつでも閲覧できるようにマニュアルを配置している。面談時にはマニュアルについても保護者へ説明をしている。職員間では職員会議等でマニュアルの読み合わせをし、周知している。 	●マニュアルは周知し、すぐに動けるようにはなっているが、防犯の発生を想定した訓練を実施できるように努めていきたい。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	<ul style="list-style-type: none"> ●地震・火事・水害を想定し、年4回の避難訓練を実施している。 ●水沢☆きらりは災害があった場合の避難場所になっている。 	●今後、保護者へも水沢☆きらりが避難場所になっていることを周知して頂くよう普段から情報を共有していく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8	<ul style="list-style-type: none"> ●重症心身障がい・医療的ケア児を預かる事業所なので服薬やてんかん発作等の状況はとても大事な事である。その為、保護者とは密に情報共有をし子どもの状況を確認している。 	●今後も子ども達の体調管理も含め、子どもの状況を確認し、保護者とは密に情報共有をしていく。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	<ul style="list-style-type: none"> ●食物アレルギーはいない。 	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	<ul style="list-style-type: none"> ●誤嚥など危険がある児童やてんかん発作がある児童に関しては、記録をとり情報を共有した中で支援を行っている。 ●重症心身障がい者育成研修を受けている。 	●発作や誤嚥など危険があったことを想定した訓練を定期的に行うよう努める。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	<ul style="list-style-type: none"> ●てんかん発作や医療的ケアの児童達への支援については看護師が家族と情報共有をしながら何かあった場合には職員・家族と連携が取れるようになっている。 	●今後も職員・家族とすぐに連携がすぐにとれるよう努めていく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	<ul style="list-style-type: none"> ●起こった場合には報告書を必ず作成し、職員間で話し合い検証している。 	●反省点を踏まえ、同じ事が繰り返されることのないように職員間で注意をし見守りを強化するよう努めている。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	<ul style="list-style-type: none"> ●法人で虐待防止委員会に職員全員が参加し、フィードバックシートを活用しながら学びを深めている。また、毎月の人権擁護チェックを行い、虐待防止委員会での会議で話し合われた結果を職員会議で職員にフィードバックをし振り返りを行っている。 	●今後も、虐待防止の取り組みを職員間で情報を共有しながら適切な対応をするようにしていく。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8	<ul style="list-style-type: none"> ●車椅子や座位保持椅子の使用に関しては保護者から同意を得ている。 	●座位がとれない利用児は座位保持椅子や車椅子を使用しているが、座りっぱなしにならないようにしている。